

チームやんじー災害支援プロジェクト 被災地での活動内容

第2陣

2011/4/3～4/23

【第2陣主メンバー】 敬称略

山口幸雄 | 山口由里 | 五十嵐賢治 | 橋本よう | 酒井雅之 | 岩井俊雪

【炊き出し総数】 8840食（累計） 12990食

【被災地の状況】

余震は依然何度も続いていました。4月7日にM7.1の大きな余震があり、津波警報が出ました。電気が、4月15日に南三陸町では、一部復旧しました。しかし、水は復旧していないため、給水車でのもらい水でした。炊き出し時は、洗い水は近くの井戸水をお借りしていました。トイレは、ファミリーマート前はない状態でした。お風呂はなく、お湯を外で沸かしてる姿も見られました。気仙沼市、志津川地区の間にある南三陸町歌津地区は、報道されることも少なく、支援救援が行き届いてない様子。そんな中、私たちの様子を見て、水を沸かしてもってきて下さったり、配られたわずかな支援物資の中から栄養ドリンクをそっと差し入れてくださったりする場面も。何かをしたい。という姿も見られました。学校は、まだ再開されず、学生たちや子どもたちの姿もよく見かけました。

【活動の状況】

安否確認、コミュニケーションの場としての炊き出し

みんなアウトドアに強い、もしくは、アウトドアの仕事をしている第2陣メンバーでした。3月23日に始めて10トントラックで支援物資を配布した歌津升沢のファミリーマート駐車場前にて炊き出しを始めました。大家さんからも許可をいただき、南三陸町に拠点をおくことが出来ました。運動会のテントを食料庫にして、食材庫を作りました。少しの長机と椅子しかなく、雨の日も晴れの日も縁石に座って食べる姿もありました。初日、治安がまだ不安定で、怖い思いもしました。車に寝ることがほとんどでした。ベースキャンプができてから、歌津地区の方々との距離も縮まりました。一定の場所で炊き出しを行うことで、被災された方の安否確認の場、団らんの場になってきました。子どもたちを引き連れて避難所から手伝いにきて下さる場面も。家族でじゃが芋の皮むきに参加して下さる場面も。食器は、水を使わない工夫で耐熱ビニールをかけて使っています。そのビニールを取り換えるお手伝いもありました。住民の方々始め、学生さんも、よく手伝いに来てくださりました。炊き出しの噂を聞き、震災当初混乱でお断りされた避難所からも、炊き出しの依頼がありました。

メニューは、野菜サラダや果物、汁ものなど、豊富なメニューでした。
 ニセコ中継局から、鮭のフライなどが届きました。魚をずっと口にしていなかった被災者の方々には大変喜ばれました。
 札幌中継局からは、果物や長芋など、栄養バランスのある食材が届きました。
 旭川、富良野、十勝、札幌チームは、チームやんじー応援チャリティーイベントを企画しました。
 北海道始め、全国からの支援の環が広がってきました。
 併せて、名足保育園、馬場中山生活センター、吉野沢団地、つつじ苑など、ローテーションで炊き出しを実施しました。
 吉野沢団地は、家は残っていますが、山手の高台で孤立化していた地域でした。
 そういった地域や家は、特に困窮していると感じ、そのような世帯を見つけては、水や食事を配ることも始めました。

【購入した主なもの】



道しるべのカーナビ



レスキューキッチン替え釜



トランシーバー



デジタルカメラ

レスキューキッチンの
 替え釜導入で、効率
 よく炊き出しできました。
 車移動は瓦礫の道なき
 道なので、カーナビは
 助かりました。

【活動の写真】



炊き出しのメニューは毎日替えました。
 果物は喜ばれました。
 地元の子どもたちや学生さんが手伝って
 くれました。



鍋を持って家族分もらう姿も



浄水器の飲み水を各家庭に運びました